

4—40

1 (表紙)

「寛政五丑四月

鳥取出府諸事控

大谷九右衛門」

2 (白紙)

3

廿二日

一 朝六ツ時ニ米子出立、由良より日暮漸夜ル八ツ時ニ長瀬へ至着一宿之事、翌朝六ツ時長瀬出立、晩方ニ鳥取本町福松屋喜兵衛宅到着之事

廿四日

一 双方勤先之音物取調私義少し気分不相勝候ニ付藤吉を名代ニして挨拶ニ廻らせ作物家来ニ荷セ目録之通土産之物差出し申事、夕方より三浦幸右衛門殿私義致推参、夜半時分迄何角之物語寛々いたし万端頼入候處明朝景山氏ニ御出被下候筈ニ御座候并今夕鉄山方之袖控失念致持参不申ニ付明朝為持遣度候段申罷帰候今夕杵村氏ニも参度存候處三浦ニ而長座仕候罷帰申候事

4

廿五日之夕

一 杵村氏へ罷出候處御逢被下何角之趣逐一御頼申上置、尚又未出府之義表向相済不申候間御老役方へ御内々御挨拶被仰可被下様御頼申上候義御承知之事夫より牛尾九郎右衛門様へ罷出候處御頭痛ニ而御逢不相成重而可参旨被仰候事

同日

一 後藤権平殿方見廻申候處途中ニ而出逢私義留守へ見廻へ申事

廿五日

一 杵村氏より別紙之御手紙被遣即刻御老役三家并
寺嶋顯功寺へ音物遣置私義跡より直ニ
御下屋敷辺へ罷出候處九郎右衛門様源藏様江者
掛御目御頼申上置候事尤源藏様より被仰聞候処
何分勘定所懸りへ兎角相歎重々あの方より
相濟候趣申来候様取計可申旨被仰渡候事

廿七日

一 両艘之欠銀上納藤吉御勘定場へ差出候事、尤
四ノ目拝借證文相添御立用被仰付候事、併
證文ニ御望之御文作被遣候ニ付認直し明日差出候事

晦日

一 東市右衛門様今日被出候處御逢被遣右之願之趣逐一
申上候處何分御勘定所へ相願何之方より私義
出府仕相歎候ニ付ケ様ニ被仰付候ニ又々
景山様より御手紙ニ而も来り候様被 仰候間
幾重も奉畏候と申上置候事

五月二日

一 村尾官平殿へ致推参候處掛御目委細之趣申
入候処先達而景山様より牛尾上村東右御三家へ
其品被申入候間いづれ之道ニも差別相付キ候趣
あの方より之取計ならてハ相濟不申旨被申候事

一 田中文藏殿よりも右同様之事内外共懇ニ
物語被申候事幾重も御下屋敷之方々より此義
御持出有之候方可然之旨被申候事

一 市右衛門様江罷出右之趣申上候趣尤ニ候得共江元来
私出府在之候間是非此分御勘定頭様ニ又々
□□惣共申来候様取計置可然候而被仰聞候事
尤表向之義ハ寺嶋金左衛門様へ申達候様ニと
被仰付候事

一 金左衛門様へ先達而より之趣逐一申上、尚又右之趣

一々申上候處御吞込之由其品被仰上被下候
様ニ被仰聞候事

五月十五日

一

金左衛門様被出候處被仰候^{ニ而}扱右之趣段々
及評義御勘定頭へ懸渡之様子申談見候得^者
最初景山様より来書懇之□付米子へ被仰
遣依之出府之事^ニ候間此義幾重もあの方へ
申立可然之旨被仰聞^ニ付私より申上候義ハ
被仰被聞候趣奉畏候、併先頃已来御存□□
御勘定懸御役人衆へ有之趣ハ段々申立候得^者
為之先達^而御文通有之事候、則御屋敷より
此義ハ御持出候□遣候處其跡筋之被申候得^者
御指図を以又々今可□此段申上其上御勘定所
御役人衆之御返答之趣罷出申上度奉存候
尚又其品承度候、金左衛門様よりも被仰候事

十九日

一

金左衛門様より呼被遣候得共私義ハ瘡物出難参^ニ付
名代^ニ藤吉を出し候處私罷出候ハ、御談し被成候由
又々翌十日^ニ少し気分候ハ、押^而参候ハ、其品御談
被成候之由被仰遣候^ニ付夕方迄何卒押^而
罷出度之旨申上置、尚又藤吉を以挨拶^ニ
申上候處藤吉へ金左衛門様より被仰渡候趣
御勘定頭様より右三百石之上納是非当月中^ニ
差出可申旨左なくてハ御振取様^江も御達^ニ
被成度候旨并大坂^ニ滞船之儀相对^ニ売払
可申之由、則支配人より及相談買手其品大坂
御役人衆へ不苦哉と相伺之金左衛門依之

御差留置被為成候由大坂より申来候^ニ付是又御勘定頭より
売払申候ハ、代銀之儀ハ相求ル船有之候迄御役所へ
差上置申候旨被仰渡候様^ニと之事、其段具^ニ
金左衛門様より私出勤之上被仰候^ニ付私より申候ハ

藤吉へ被仰渡候趣逐一承知候、右ニ付御願
申上度筋御座候得共右仕合候、且又手船
大坂表^{ニ而}直段^ニ懸ケ申渡候、勿論仕掛取度
其段先達^而申上置候、左候得者いづれ^ニも望手
有之候節ハ代り船無之^而も見セ申事^{江有内}
無左候^而ハ所詮取捌方難相成、依之いづれは望ミ
申候付定^而付直段等為致候もの^ニ奉存候
然レ共代り船無之^而も売払申度奉存候得^者

1
0

素り御伺申上御指図次第可仕もの^ニ御座候
此等之趣ハ氣遣成ル事毛頭無御座候、とふやら
余り御さゝひ過し御事と奉存候と申上候事
并金左衛門様より被仰候趣此度出府之事^ニ
候得共格別之御頼之筋も有之候趣^ニ被申相聞候間
何分米子手之身分候間一先ツ帰宅之上米子
御役所へ願書差出可然之旨被仰候、私よりも
御答申上候^ニハ被仰渡候趣奉畏候得共格別之
御願申上候□□之儀^{ニ而}も無御座候、則右御用船之
儀^ニ付出府儀仕候其段御願申上度之由御聞届之上^{ニ而}
罷出候義願書も御取上ケ不被仰付罷歸米子にて
御役所へ申上候^而も何之為罷歸候哉と被仰候^而も
御答可申上様も無御座候、尤罷出候節右上納米

1
1

御願申上御聞届無御座候節ハケ様候之願書^{ニ而}も
指出度候段申上候義も毛頭無御座方畢竟右^ニ
付て之願意^ニ御座候間不苦候□早思召候ハ、可然様^ニ
奉願候と申上候事いづれ之道^ニも是ハ帰宅候上御願申上
可然申候御事、何様追^而御返答申上度と申上候事
扨金左衛門様被仰候趣、彼是と申上身為不宜相
成候^而も□□致候者兎角に間柄同役中^ニも相談
之上宜可申上候旨御添心被成候^ニ付難有仕合奉存候
私身分之儀勿論覚悟之儀元来御役人中之御取計^{ニ而}
御用船之儀も難勤り相成り申候、所詮此度纔之日数
御猶予被仰付候由逆も行末只今之趣^{ニ而}ハ御用も
難相勤奉存候^ニ付此度乍恐御用船相勤申上候段

1
2

御断り申上、拝借米上納候儀ハ私家録を以無滞年々ニ
相納申上度段御願申上度奉存候、尤御聞届被仰付
候ハ、大勢之家族及渴命候間格別之御憐愍を以如何様も
身命取続候様可被仰付候旨御願申上度奉存候并
御上様へも御願申上度筋も御座候、乍併御時節柄
ニ付幾重御願申上候_而及渴命候_而も不苦思召
被為御捨置候ハ、無拋義ニ御座候間乍恐
公方様_江御願申上度義も御座候間願意之趣
太守様より御指出被為遊被為下候哉ニ又々御恵_{ニ而}も被仰旨
仰付候哉、両品共ニ御取上ケ無御座候得ハ無余儀
江府へ直訴へニ罷出候より外ハ致方も無御座候
奉恐入候義ニ御座候、先達_而船願候付段々御苦勞ニ
罷成、其上右等之重キ御訴詔申上度趣一重々々

1
3

御役害ニ被成候儀是のミ御厚恩忘却ニ相当り恐入
奉存候何様追_而参上以御答申上度申罷帰候事

廿三日

一 金左衛門様へ罷出仰ニ随ひ一先ッ罷帰米子御役所_江
願書指出申上度、尤直ニ又々出府仕度其節ハ御苦勞ニ
被成下様ニと帰宅之御受申上候事

同日

一 御老役御三家へも罷出此度御願申上候趣委細之儀ハ
金左衛門様より被仰渡候趣ニ随ひ御指図を以帰宅仕候
尤願書ハ米子御役所へ指出候様被仰渡其段
御請申上候就夫御添書之返翰相願申上候、来ル廿六日ニ
爰許出立仕候と申上置候事源藏様へ御大病_{ニ而}
不掛御目候事

廿五日

一 今日御添書返翰受取申候事
1
4

廿五日

一 御勘定所御役筋_江も罷出此度御願申上度

義ニ付出府仕候處願之趣ニ付一先ッ帰宅之上
米子御役所へ願書指出候様被仰渡候ニ付無扨
一寸罷帰申候、此段何角御挨拶旁伺公奉候申上置
罷帰候事

廿五日

一 今朝出立可致候處昨日勤先キ相殘申候付
無扨逗留いたし木村治郎左衛門様国留作左衛門様
始メて出入いたし掛御用申候、尤内願之筋有之ニ付
田中曾兵衛様鈴木順兵衛様右候御兩人へ召出申候事
御願之筋書頭し不申候事

1 5
(白紙)

1 6

一 青屋木綿二疋

上之鯉節 壹連

国留作左衛門様

1 7

一 青屋木綿二反

太田権右衛門様

鯉節 貳連

一 右同断 二

景山源左衛門様

二連受納

一 青屋木綿一反

柏木直左衛門様

鯉節 一連

御不幸有之付御菓子遣し貳五匁

1 8

一 右同断 一

河寫利左衛門様

一 右同断 一

村尾官平様

一 右同断 一反

田中文蔵様

一 貳連

木綿一反二袋

一 干海老 壹籠

小代嘉太夫様

一	右同断	後藤権平様
一	青屋木綿一反	間宮仙蔵様
一	干ふひ 沓籠	三浦幸右衛門様
一	右同断 一反	矢野笹右衛門様
一	干ふひ 沓籠	山崎助右衛門様
一	くりわた沓袋百五十目	坂根長兵衛様
一	干ふひ 沓籠	牛尾五郎右衛門様
一	青屋木綿一反	上村源蔵様
一	鯉節 沓連	東市右衛門様
一	右同断	寺嶋金左衛門様
一	くりわた一袋沓百目	牛尾九郎右衛門様
一	鯉節 沓連	
一	青屋木綿一反	
一	干ふひ 一籠	
二 一	くりわた沓袋三百目	頭功寺様
一	くりわた沓袋二百目	平野屋八郎右衛門様
一	えひ沓籠	杵村源左衛門様
一	青屋木綿一反	
一	鯉節 沓連	
一	くりわた沓袋二百目	田川庄太夫様
一	干ふひ 沓籠	
一	くりわた 同断	大寫久左衛門様
一	鯉沓連 沓籠	
二 二	くりわた沓袋二百目	砂川源五右衛門様
一	鯉節 沓連	
一	右同断	林新兵衛様

木綿十式反 代

繰綿式_レ七百五拾目 代

鯉節百五十節 代

干海老八軒分 代

23

右之通之外勤ハ願之品_ニ寄相伺可申事

御元_レ様へ音物御受納無之候

一 灘廻役人宿へ何そ_一沓品宛_{ニ而}通懸之節立寄候事

一 鳥取御老役方小頭三人へハ_一沓包宛差出候事

(式包_ニ)

ゑひ沓籠

一 内願之品_ニ寄候得_者御出入被仰付候

御老中様方之御家老衆へハ相伺候義も左御座候

其外御運上懸り御郡代様方へも相勤候事

此義何卒祈申上候事

24

一 くりわた二百め一 田中曾兵衛様

生鯛二尾

五月十七日

一 くりわた三百目二 情教寺 使藤吉_{ニ而}

初穂十五匁

一 帶老筋 坂井六兵衛様

鯉老連

一 右同断 使 神田七郎右衛門様

一 くりわた 鈴木順兵衛様

鯉節

一 川越袴地一下 代四十五匁 木村治郎左衛門様_江

鯉節 一連 同四匁五分

25

十八日

一 五拾目六分 三浦幸右衛門殿より五左衛門方へ

安四郎への分木綿四疋

代天満屋平右衛門へ相渡ス

同日

一 拾六匁五分 木綿沓疋代河崎者へ相渡候

内半手前_ニ入用也 鳥取遣被成候

同日

一 拾九匁 青屋木綿式反代渡候

東之油売_ニ渡候

廿日

一 廿四匁 干海老 勤先土産塩肴代

四_ノ目

同日

一 三十三匁七分五厘 くりわた_モ五百目

代長左衛門へ相渡候「」

「」

26

同日

一 貳匁 大地谷紙四十枚

わた紙袋

同日

一 廿三匁七分五厘 くりわた_モ兼目

代長左衛門へ相渡候

同日

一 拾八匁 くりわた八百目

但内三百目 何右衛門へ渡候

手前入用_ニ取

同日

一 三匁五分 こま／＼買物荷仕廻_ニ付

何角調候もの也

廿一日

一 五匁 入用紙類代

27

一 日置氏より御頼之趣岡本利右衛門様より参り候もの有之候間

鳥取罷越候ハ、何れ_者以日置氏へ被遣候もの御渡候

申上候得_者相渡候事

一 松本より被頼候もの惣兵衛油_モ本_者鼻紙_モ匁_カ

わらひ_モ匁_カ

一 四匁五分 松本氏あつらへもの也

廿二日	一 廿匁	道中人足賃金 _ニ
同日	一 三匁	藤吉へ渡し置
同日夕	一 六匁	野津之茶屋 _{ニ而} 酒之代
28	一 六匁	長瀬 _{ニ而} 一宿致包札
廿三日	一 百拾四匁七分	青屋 _{ニ而} 木綿九反代
同日	一 拾三匁	加戸屋方へ相渡ス
同日	一 拾三匁	同老反同所庄屋 _{ニ而} 求ム
一 拾貳匁七分	一 拾貳匁七分	同老反加戸屋より買求メル
廿四日	一 三匁	杵原紙貳帖
同	一 百文	水引五十
一 老匁	一 老匁	のし老包
一 同	一 同	鯉節少々来り
一 同	一 同	薄階太五帖
一 笠	一 笠	笠一かつ代
29	廿四日	
一 傘老本	一 傘老本	代八匁五分
廿五日	一 上下一具	使長太郎へ相渡ス
同	一 貳拾六匁	代四拾五匁
同	一 貳拾六匁	こくもち帷子
一 廿五匁	一 廿五匁	右同断
同	一 五拾六匁	越後帷子一反

	〆百五十匁	和田屋平治郎方へ渡ス
	同	
	一 三匁	ろうそく代
	廿六日	
	一 一匁五分	下厚階太老帖
	廿七日	
	一 五分	家来太郎治貸スさとう代
	同	
	一 三匁	ひん付油元結代
3 0	(白紙)	
3 1		
廿七日		
一 拾老匁七分四文	藤吉へ相渡右ハ道中銀 不足ニ付相渡ス也参懸 之分也福松屋ニ而渡ス	
晦日		
一 拾匁	ひん付油五本代使伊兵衛ニ而 米子へ遣候	
同		
一 老匁	白箸式百膳代	
一 同	元結代宿より取	
同		
一 老匁五分	下階太老帖米子行	
同		
一 貳百廿三匁	藤吉へ相渡ス右ハ切手代 不足ニ付取替置申事	
同		
一 貳百目	米子宿元へ遣ス総見寺へ 遣候分飛脚伊兵衛へ相渡候	
一 拾三匁	「 」	
	入用候	
3 2	一 貳匁	干菓子代
五月二日		
一 五匁	柏木へ悟ニ遣菓子代	
三日		

一 六匁	牛尾上村東右小頭中指代
式匁宛之分	
三日	
一 一百目	宿福松屋へ渡置是ハ
	節句前ニ候間先宿払之
	先渡し度也藤吉へ
八日	宿主喜兵衛へ相渡候
一 八拾貳匁六分	和田屋平治郎方へ
此分ニ百目渡し置	帷子一反麻袴一反代也
六十め	廿貳匁六分 相渡候
同	
一 貳匁	遣肴宿代ニ相渡候
同	
一 壹匁	小払候也
八日	
一 十八匁	下男太郎治へ帷子代□貸ニ
	□□之由也
兩度之分	
一 四匁	客来入用也
33	
十二日	
一 七匁三分	向之八百屋へ肴代ニて
	相渡ス
同	
一 七匁五分	封箱書之代相渡ス
一 壹匁	平八被参候節菓子之代
一 壹匁	肴之代客来之代
一 壹匁	右同断
十九日	
一 七匁四分	家来太郎治返しニ付御来屋
	人足賃渡ス
同	
一 十五匁	右同断道中
廿日	諸入用ニ渡ス

一	五匁	上源様へ見廻り遣ス串鮑代
一	三匁壹分	上下壺具仕立賃
3 4		
一	貳匁	脇差柄頭一ツ代
廿三日		
一	廿三匁	藤吉こま／＼買物代渡ス
同		
一	三拾匁五分	脇差壺腰仕立
廿五日		
一	百卅匁貳分九厘	宿福松屋喜兵衛
廿六日之朝		
一	百廿四匁三分五厘	和田屋平治郎方より
		買物代渡ス
同		
一	三匁	茂三郎迄包ム
同		
一	四匁	もの書方へ包ム
一	壺匁五分	酒肴代
廿六日		
一	廿匁	中村屋儀兵衛ニ用立